

# 「主体的・対話的で深い学び」をサポートする 学級内SNSの活用

キーワード 学級内SNS, Edmodo, 学習支援アプリ, 学習のふり返り, 交流

学校名 国立大学法人東京学芸大学附属小金井小学校

所在地 〒184-8501  
東京都小金井市貫井北町4-1-1

ホームページ  
アドレス <http://www.u-gakugei.ac.jp/~kanesyoy/>

## 1. 研究の背景

昨今、SNS をめぐるトラブルが増えており、現代の子どもたちが SNS のもたらすトラブルに巻き込まれる危険と隣合わせしているのは周知の事実であろう。しかし、現実問題として SNS と完全に距離を置いて生活していくことは難しい。よって児童と SNS を巡る問題は「子どもに SNS を使わせなければ問題は起こらない」というような単純な話ではないし、「SNS の危険を知らせる講習会」で済む話でもないだろう。むしろ早期に、安全な環境で SNS を積極的に使わせるべきではないかと我々は考えている。これを実現するのが学級内 SNS である。学級担任が管理者となり、安全性を確保した上で SNS を利用させれば、例えトラブルが起こっても学校で担任を交えて問題を解決することができる。

しかし、ただ使うだけでは意味がない。学級内 SNS の特性、即ち授業という時間の制約や、教室という場所の制約を超え、全員に発言の機会が保証されているといったことを活かし「主体的・対話的で深い学び」をサポートするカリキュラムをデザインしていく必要がある。

平成 28 年度は 1 年生 1 学級を対象に学級内 SNS を使った実践を行った。例えば「展覧会を鑑賞し、自分の好きな絵についての感想文を書き、これを学級内 SNS 上で読み合って感想を伝え合う」といった実践を行った。それまで文章を書いたり、友達の文章を読むことに興味のなかった児童が、積極的に発言し、文章を書いたり読んだりすることへの興味を高めることになった等の成果が得られた。

こうした実践の成果を踏まえ、本格的に SNS を利用する前の児童に対する事前教育としても機能すると共に、学級内 SNS をどのように活用すれば「主体的・対話的で深い学び」を実現できるかを探る研究を行うこととした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、「主体的・対話的で深い学び」をサポートする仕組みとしての学級内 SNS の活用方法を探ることである。

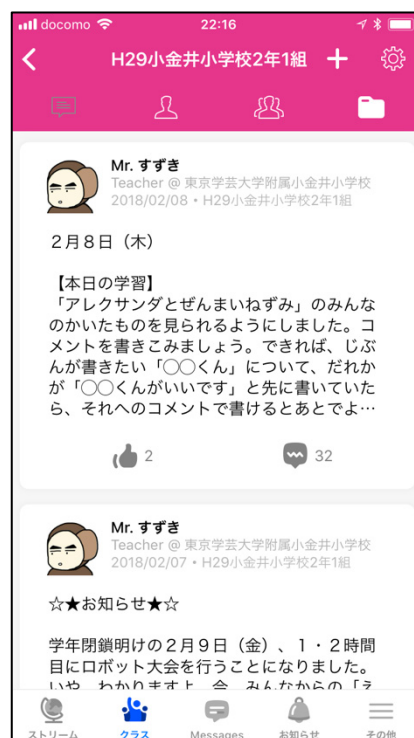


図 1 : 学級内 SNS の画面

今年度は SNS を構築する学級を増やし、複数の教科においてどのような活用が可能かを探っていく。

### 3. 研究の経過

月	内容・方法（研究の評価と公開のための活動なども含めて）	
	<b>新規に学級内 SNS を始める学級</b>	<b>前年度から学級内 SNS を使っている学級</b>
4	学級内 SNS 構築に向けた教員向け研究会の実施。	授業において学級内 SNS を活用しやすくする環境の設計。
5	学級内 SNS 構築に向けた保護者への説明会開催。	授業において学級内 SNS を活用しやすくする環境の構築及び検証。
6	児童及び保護者アカウントの作成。	4・5月に構築した環境を活用した学級内 SNS 利用授業（国語）の実施。 ※校内研究会として行い、校内での評価を受ける。
7	学級内 SNS の試験運用と、家庭でのアクセス状況等の確認。	
9	学級内 SNS 利用授業（国語・算数・生活他）の実施。	
1 2	東京学芸大学教育フォーラム 2017 で口頭発表。	
2	保護者・児童を対象に学級内 SNS 利用に関するアンケートを実施。 Edmodo Con Japan で口頭発表（YouTubeLive で配信）	

### 4. 代表的な実践

【2年生国語「ないた赤おに・ないた青おに」】

#### (0)環境

当該学級（男子 18 女子 17）には一人一台の iPad（SIM カード付き）が配備されており、全ての教科で何らかの形で日常的に利用している。また教室には AppleTV の接続された高輝度のプロジェクターがあり、教師用 iPad の画面を映すことはもちろん、児童自身が操作して自信の iPad の画面を映して発表を行う等の活動をする環境が整っている。

#### (1)単元名

「ないた赤おに・ないた青おに」

教材名「ないた赤おに」（教育出版 2 下）

#### (2)単元の目標

◎登場人物の行動と心の動きを手がかりに『ないた赤おに』を読み、学習感想を伝え合う。

○人物の動きや場面の様子の楽しさを読み、読書の世界を広げる。

### (3) 単元設定の理由

当該学級の児童は、物語文を読むことを非常に好む。特に登場人物の気持ちを想像して読むことへの関心が高い。そこから、「ないた赤おに」について登場人物の行動と気持ちを読み取った後、続編として担任が書いた「ないた青おに」の話を手がかりにして青おにの心情をより深く読み込むことをねらった。

### (4) 単元の学習指導計画

第一次 「ないた赤おに」を読み、登場人物の気持ちを考えるというめあてをもつ

第二次 「ないた赤おに」をまとめりごとに読み、内容をつかむ

第三次 「ないた青おに」の気持ちを想像する

### (5) 学級内 SNS の活用方法と授業支援アプリの併用

学習の振り返りを行う際に使ったのは、iPad にインストールされた学習支援アプリ「ロイロノート」と、学級内 SNS 「Edmodo」である。これらを利用した学習の流れは、概ね以下のようなものであった。

[1]登場人物の「行動」と「気持ち」をノートにまとめる。

[2]iPad を使ってノートを撮影し、ロイロノートで提出する。

[3]友だちのノートをロイロノートを使って読み合う。

[4]学習感想を Edmodo に書き込む。

[5]Edmodo に書き込まれた友だちの学習感想を読み、「いいね」を押ししたりコメントをつけたりする。

ただし、[1]から[4]は必ず授業時間内に行ったが、[5]は授業時間内だけでは進まない場合もあるので、その場合は iPad を持ち帰って自宅で行ったり、翌日の朝学習の時間に行うなどした。

### (6) 学級内 SNS 活用の実際

例えば「五」場面についての回で、児童 A のノートには赤おにについて以下のように書かれていた。

行 動：青おににつかみかかって、げんこつでコツンと一つうった。

気持ち：青くんがいたくないようにやさしくたたこう。

これをロイロノートで見た児童から Edmodo で以下のようなコメントが寄せられた。

児童 B：A さんのノートがいいと思いました。なぜかと言うとしっかりと理由を書いているからです。

すると、それを見た別の児童から以下のコメントがついた。

児童 C：僕もいいと思った。

或いは児童 D のノートには赤おにについて以下のように書かれていた。

行 動：強くうつまねをした。

気持ち：青おにがころんだから、びっくりした。

これをロイロノートで見た児童から Edmodo で以下のようなコメントが寄せられた。

児童 E：D さんの赤おにの気持ちのところが良かった理由は、ほとんどの人がびっくりしたと書いているけど D さんはこうこうだからびっくりしたと書いていたから

すると、それを見た別の児童から以下のコメントがついた。

児童 F：私もそう思うな。

これらは、一つ一つのやり取りを見れば大したものではないかもしれない。だが、注目すべきことが 2 点ある。

こうした「学習感想を書く→友だちの学習感想を読み、コメントをつける→友だちが、別の友だちの学習感想につけたコメントに、さらにコメントする」という活動が、クラス全員の間で次々と発生していることである。一斉授業でこれだけ同時多発的にコメントを重ねるようなことは不可能だし、ICTを使わないコメントカードのような紙媒体だけでも実現は難しいだろう。

次に、上記例の児童 C、児童 F のコメントについてである。「僕もいいと思った」「私もそう思うな」というコメントそのものは単純なものだが、児童 C が児童 B に、児童 F が児童 E にコメントするためには、その元となっている児童 A や児童 D のノートを読まなければならない。つまり児童 C や児童 F がコメントをつけられているということは、Edmodo に書き込まれた友だちの学習感想だけではなく、その元となった友だちのノートをそれだけしっかり読んでいるという証拠でもある。

これは何を意味するか。こうしてコメントを残している児童については、普段はなかなか見えにくい学習過程についても評価ができるということになる。これは学級内 SNS を活用する際の大きな利点である。

また、Edmodo に書かれた学習感想が次の授業の学習内容を決める場合もある。この「五」の場面で児童から多く出たのは以下のような意見であった。

児童 G：村人の気持ちを書くのが難しかったです。理由は、1 番大切な気持ちはどれかな、と迷ったからです。

児童 H：村人の思ったことを書くのが大変だった。理由は村人の思ったことが少し多かったからです。

児童 I：村人の気持ちを書くのが難しかったです。理由は村人の気持ちを自分で考えないといけないからです。

こうしたことから、次の授業は「村人の気持ちはどのようにまとめればよいだろう。」ということ話し合うところから始まった。すると児童から次々に「児童 J のノートがよく書けていた。」「児童 K の書き方はみんなとちょっとちがっていて面白い」というような意見が出てきた。それらの指摘があったものをロイノートで確認しながら「村人の気持ちはどのようにまとめればよいか」を考えていくことは必然的に多くの書き方を比較検討することになった。要約は、二年生にはまだまだ難しいことであるが、その入り口には立てたようである。

## 5. 研究の成果

### (1) 学習のふり返りに特に効果を発揮した

授業後に学習のふり返りを書かせることは、次時の学習を豊かなものにするための大切なプロセスだが、授業時間内に収めることは時として非常に難しい。タブレット端末の持ち帰りを認めるなどして、家庭でも学級内 SNS にアクセスできる環境を整えてやると、時間の制限が取り払われるのでじっくりと時間をかけた充実した学習感想が多く集まることになった。翌日の授業では、友だちの学習感想を読むところから授業を始められるので、学習したことについての認識を新たにしながら本時の課題に向かえる。こうしたことから、学習のふり返りに学級内 SNS が大きな効果を発揮すると考えられることが明らかになったのは、本研究の成果と言えるだろう。もちろん学習感想を何かワークシートに書かせ、それを教師が集めてプリントして配付すれば紙ベースでも同じようなことができないわけではないが、かかる労力が全く違うので現実的ではない。

### (2) 情報を共有する、或いはお互いに感想を述べ合うことに適している

学級内 SNS は、代表的な実践で紹介した例からも明らかな通り、児童間で学習の成果（ノート等）について意見を交換したり、感想を述べ合ったりすることに大きな効果を発揮することが明らかになった。通常こう

した活動は一斉授業の中では十分に行うことはできない。せいぜいグループ毎にノートを見せ合って交流するくらいのことしかできないが、学級内 SNS を利用することによって「クラスの誰もが、誰かのノートにコメントすることができる」環境が構築されるので、活発な意見交換が行われることになる。また、「コメントするためには友だちのノートをしっかり読まなければならない」ので、自ずと友だちのノートをきちんと読むようになるし、また読んでもらえるようにノートをきちんと書く子が増えていくという効果もあった。

### (3)他の学習支援アプリと組み合わせて使う効用

学級内 SNS を単独で使うことも不可能ではないが、他のアプリ、特に学習支援系のアプリと組み合わせることによって大きな効果を生むことが明らかになった。お互いの成果物を見せ合うのはロイロノートや MetaMojiClassRoom 等の学習支援アプリで行い、その感想を伝えあうのは学級内 SNS で行うという形である。

複数のアプリを組み合わせるのが児童には負担になるのではないかと当初は危惧もしたが、特に何の障害もなく活動を進めることができた。児童にとっては「何をするのか」ということさえはっきりしていれば「そのためにどのアプリを使うか」を考えるのは苦ではないということのようである。これは学級内 SNS を活用する上でも発見であったが、他のアプリを使う上でも参考になる発見であった。

これらのことは、学級内 SNS が活用の方法次第で十分に「主体的・対話的で深い学び」をサポートするものであることを示していると言えるだろう。それを確認できたのが本研究の最も大きな成果と言える。

## 6. 今後の課題・展望

### (1)文字入力をどうするか

ローマ字を学習するのは3年生からである。それ以前の児童に対して文字入力をどのように実現させるかは、なかなか悩ましい問題である。音声入力は、うまくできる子とできない子の差が激しすぎる。かな表からの入力はスピードが上がらない。手書き文字入力はアプリによって対応しているものとしていないものがあり、本研究で利用した学級内 SNS (Edmodo) では利用できなかった。

ローマ字入力も含めて「自分のやりたい方法で入力してよい」としたが、いずれも一長一短であった。今後も研究が必要な部分であろう。

### (2)アクセス環境

学級内 SNS は、学校を越えた環境で使ってこそ意味のあるサイバースペースである。そのためのアクセス環境を用意できるかどうかで、学級内 SNS の効果は大きく変動するだろう。理想は SIM カード入りのタブレットを一人一台用意することだろうが、なかなかそうはいかないのが多くの学校にとっての実情であろう。そのような中で学級内 SNS をどのように機能させていくかは、校内の授業でどう使うかということを含めてよく考えていかねばならない問題であろう。

## 7. おわりに

主体的・対話的で深い学びを実現する上で、児童間のコミュニケーションをどう活性化させるかは大きなテーマである。本研究を通して学級内 SNS がその実現に大きく寄与することは確認できたが、学級内 SNS の効用はそこに留まるものではない。教育活動の根幹となる学級経営を円滑に進める上でも学級内 SNS は大き

な効果を発揮する。また、インターネットを巡るモラル教育を展開する上でも、インターネットの技術を使いながらもクローズドな環境で児童間のコミュニケーションを促進できる学級内 SNS は使い勝手が良い。今後もこうした学級内 SNS の多面的な価値を引き続き追求していきたいと考えている。

## 8. 参考文献

- ・「共通教科「情報」における教育用 SNS の活用事例」高瀬敏樹,2014 PC カンファレンス論文集（CIEC コンピュータ利用教育学会）,2014
- ・「「1対1」×40人分がつながる授業」熊谷優一,EdmodoCon2017  
[https://www.youtube.com/watch?v=mRauun2XVuI&feature=youtu.be&\\_fsi=9K2gxrLq](https://www.youtube.com/watch?v=mRauun2XVuI&feature=youtu.be&_fsi=9K2gxrLq)